

〈知的・自閉症・情緒障害教育〉

## 自閉症スペクトラム児の コミュニケーションスキルを高める指導法の工夫

— 自立活動における「コミック会話」「ソーシャルストーリー」の実践を通して —

那覇市立小禄小学校教諭 玉 村 弥 修

### I テーマ設定の理由

平成24年7月の中央教育審議会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」によると、共生社会とは必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が積極的に参加・貢献していくことができる社会であると示されている。障害のある児童生徒が、そのような社会に参加することができる力を身に付けるには、相手との会話のキャッチボールをしながら意思疎通を図ったり、場や相手の状況に応じた対応したりすることができるコミュニケーションスキルの習得が不可欠である。

平成21年の特別支援学校学習指導要領解説自立活動編において、社会の変化や障害の重度・重複化、発達障害を含む多様な障害に応じた指導を充実させるため、自立活動の内容に「人間関係の形成」が加えられた。「人間関係の形成」では、自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容が示されている。

本研究の対象となるA児は自閉症・情緒障害学級に在籍しており、自閉症スペクトラム（以下「ASD」とする）と注意欠陥/多動性障害（以下「ADHD」とする）を併せ有している。文字を書いたり絵を丁寧に描いたりすることが得意で、一人でおもちゃやゲームで遊んだりすることが好きである。授業中、なかなか集中することができないときに学習内容と関係のない話をしたり、教室を立ち歩いたりする行動がみられる。体育や音楽の授業での交流及び共同学習においては、友だちに促されて学習に参加している。しかし、友だちに対して「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝える姿があまりみられない。また、「嫌だ」という自分の気持ちをうまく表現することができずに、咳払いなどのチック症状やその場に座り込んでしまう不適応行動が現れてしまうことがある。さらに、相手の話を聞かずに自分の興味のあることを一方的に話し続けたり質問を投げかけたりする等、コミュニケーションが一方通行になってしまう現状がみられる。

このような状況から、自立活動の授業において日常生活におけるコミュニケーションの場面を取り上げ、教師の手本を基に会話をするといったロールプレイングの手法を取り入れたソーシャルスキルトレーニング（以下「SST」とする）を行ってきたが、会話のキャッチボールや自分の気持ちを表現するスキルの定着が不十分であった。

このようなことから、「コミック会話」「ソーシャルストーリー」の手法を取り入れたSSTに着目した。文字を書いたり絵を描いたりすることが得意であるA児の特性を活かし、コミック会話の手法を用い、場や相手の状況に応じた話し方や行動について考え、ソーシャルストーリーを用いて学習内容を視覚的にフィードバックすることで、場や相手の状況に応じた対応や自分の気持ちを表現する方法を習得することができるのではないかと考える。さらに、習得したスキルを、学校生活や家庭・地域と連携し、一貫した取り組みを実践し、成功体験を積むことでコミュニケーションスキルを高めることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

自閉症・情緒障害学級の自立活動におけるSSTの取り組みにおいて「コミック会話」「ソーシャルストーリー」の手法を取り入れ、指導法を工夫することによって、自分の気持ちを表現する方法を習得することができ、場や相手の状況に応じたコミュニケーションスキルを高めることができるであろう。

## Ⅱ 研究内容

### 1 ASD児の障害特性について

ASD児の特性として、コミュニケーションや社会性の面において言葉の遅れを有することがあり、他者との会話が成立しにくく、双方向の交流が困難になってしまうことがある。また、相手の状況や気持ちを考えた対応をすることに困難さがある。さらに、決まったものに強い興味・関心を持ち、同じパターンの行動を繰り返すなど、限定的・反復的な行動様式をとる特性を有する。このような特性が、円滑な人間関係を結ぶことの妨げとなってしまうことが多い。

宮本信也(2015)によると「自閉症スペクトラムは病気や障害でもなく、その子どもの生まれ持った特性であり個性である」と述べている。また、「自閉症スペクトラムなどの『発達障害』は、『特性を持っているために、日常生活や社会生活をする上で困難や障害が起こりやすい状態』であり、『支障なく生活を行うために持続的な支援を必要とする状態』」と述べている。このようなことから、ASDの有する特性そのものを障害としてとらえるのではなく、ASDの有する特性に対応された環境下にない状況で起こってしまうパニックや対人トラブル等の二次障害を課題ととらえる。それらを予防するための環境づくりやスキルを身に付けさせることが大切ではないかと考える。

また、宮本は「現在では自閉症スペクトラムの子どもでADHDも併存している子は少なくないといわれています。特に、自閉症スペクトラムなどの診断のために医療機関を受診する子どもは、両方が併存していることが多いようです。」と述べている。

### 2 A児の実態把握について

#### (1) 行動観察

本研究対象児であるA児は、ASDとADHDを併せ有している。主に特別支援学級で過ごし、友だちの手助けで交流及び共同学習に参加している。一人で行動することを好み、休み時間はほとんど一人で遊んでいる。学級担任や支援員の先生、慣れた友だちとはおしゃべりをすることもあるが、こちらからの話しかけに対しあまり反応がなく、ゲームやテレビ番組、地震など自分が強く興味のある事柄について一方的に話したり質問したりするために会話が成り立たず、コミュニケーションが一方通行になってしまう状況がみられる。前述のとおりA児もADHDを併せ有しており、授業中は集中力があまりなく、今取組んでいる学習内容と関係ない話をしたり、断りもなく立ち歩いて戸や窓ガラスの閉まり具合を確認したりする行動が多くみられる。また、他学級の教室や職員室などに無断で入退室する姿も多くみられ、相手を驚かせることもあった。

#### (2) S-M社会生活能力検査

6月に実施したS-M社会生活能力検査の結果では、「社会生活年齢」の値が4歳となっており、生活年齢と比較してかなり開きがある。下位領域についても各領域ともに発達がゆるやかである。「作業」領域が5歳代であるが、A児は字を丁寧に書くことや絵を上手に描くことができる。この特性はイラストや台詞等を記入するコミック会話に取組むのに適しているのではないかと考える。

「意思交換」領域は3歳代である。日常では小学校低学年程度の漢字等、文字の読み書きをすることはできるが、コミュニケーションに必要な言葉の習得が不十分で、会話に必要な言語の受容や表出に課題があるのではないかと推測する。

また、「集団参加」領域は3歳代となっており、普段の様子からルールがある遊びや体育の球技等の参加に消極的であり、一人で活動する姿が多くみられることがある。さらに、「自己統制」領域が2歳代で生活年齢と最も差が開いており、学校生活においても時と場所に合わない発言や行動がみられることがある(表1)。

#### (3) ヴェインランドⅡ-適応行動尺度

11月に実施した、「ヴェインランドⅡ-適応行動尺度」は適応行動に関する4領域と不適応行動に関する1領域、さらに各下位領域から構成される適応行動全般を評価する発達検査である。適応水準とは別に各下位領域における個人内の強みと弱みを把握することができる。

表1 S-M社会生活能力検査  
(平成28年6月実施)

|        |     |       |
|--------|-----|-------|
| 生活年齢   | C A | 11-11 |
| 社会生活年齢 | S A | 4-0   |
| 社会生活指数 | S Q | 34    |
| 身辺自立   | S H | 4-8   |
| 移動     | L   | 3-9   |
| 作業     | O   | 5-1   |
| 意志交換   | C   | 3-9   |
| 集団参加   | S   | 3-1   |
| 自己統制   | S D | 2-9   |

A児の実態から今回はコミュニケーション、日常生活スキル、社会性の3領域を検査した結果、生活年齢(12歳3ヶ月)と、相当年齢を比較すると大きな差がみられた。各領域、下位領域ともに適応水準が低いという結果となった。

コミュニケーション領域では、「受容言語」、「表出言語」とともに低く、特に表出言語に弱みがあるという結果が出た。これは、他者とのやり取りで自分の気持ちや意思を言葉で表現することが苦手であることが示されていると考える。一方、「読み書き」については相当年齢が7歳代となっており、簡単な文章を読んだり、字を丁寧に書いたりすることができる。

また、社会性領域の各下位領域の適応水準は低いのだが、「対人関係」に強みがみられた。これは、普段の生活でA児と職員や友だちと関わる場面が多いことが示されているのではないかと考える(表2)。

表2 ヴァインランドⅡ-適応行動尺度  
(平成28年11月実施一部抜粋)

| 下位領域と領域の得点 |       |              |              |              | 強み(S)と弱み(W) |          |
|------------|-------|--------------|--------------|--------------|-------------|----------|
| 下位領域/領域    | 粗点    | v評価点<br>表B.1 | 適応水準<br>表C.4 | 相当年齢<br>表C.5 | 得点-中央値      | S/W      |
| 受容言語       | 26    | 5            | 低い           | 2:4          | <u>1</u>    |          |
| 表出言語       | 74    | 1            | 低い           | 2:11         | <u>-3</u>   | <u>W</u> |
| 読み書き       | 30    | 4            | 低い           | 7:2          | <u>0</u>    |          |
| コミュニケーション  | 合計 10 |              | 低い           |              | <u>-3</u>   |          |
| 身辺自立       | 67    | 3            | 低い           | 5:3          | <u>0</u>    |          |
| 家事         | 17    | 6            | 低い           | 5:10         | <u>3</u>    | <u>S</u> |
| 地域密着       | 39    | 2            | 低い           | 6:6          | <u>-1</u>   |          |
| 日常生活スキル    | 合計 11 |              | 低い           |              | <u>4</u>    |          |
| 対人関係       | 33    | 6            | 低い           | 2:0          | <u>4</u>    | <u>S</u> |
| 遊びと余興      | 8     | 1            | 低い           | 0:11         | <u>-1</u>   |          |
| コーピングスキル   | 13    | 2            | 低い           | 2:8          | <u>0</u>    |          |
| 社会性        | 合計 9  |              | 低い           |              | <u>0</u>    |          |

#### (4) A児のコミュニケーションに関するアンケート

11月にA児の行動に関するアンケートをA児と関わりのある職員に行った。質問項目は、学苑社より出版されている「6つの領域から支援する自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム」より一部引用している。質問項目1、2、4、5は学級担任と協力学級担任、特別支援教育ヘルパー計5人から回答が得られた(図1)。

アンケートの結果を考察すると、質問項目1～3について、A児は「自発的に話し始める」ことはできるとの回答が多かったが、話す内容のほとんどが自分の興味のあることに偏っている。「話題に沿った話をする」ことや「相手の話を落ち着いて聞く」ことが苦手で、自分の興味のない話題について話したり聞いたりすることに困難さがあるのではないかと考える。質問項目7～10から自分の気持ちを言葉で表現することに困難さがみられる。質問項目4～6から質問の答えや自分の要求を言葉で話すことができる。

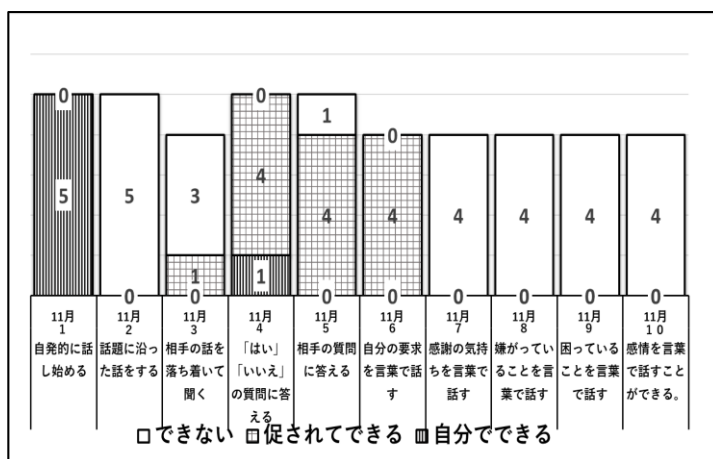


図1 A児のコミュニケーションに関するアンケート  
(平成28年11月実施 一部抜粋)

#### (5) 実態把握をふまえたSSTの取組みについて

行動観察や発達検査、アンケートの結果から生活年齢と相当年齢に大きな差がみられた。その中でも発達検査から、「作業」「読み書き」領域に強みがあるのではないかと考える。そのようなA児の特性を活かし、SSTを実施する際にコミック会話の手法を用い、場や相手の状況に応じた話し方や行動について学ぶ。それからロールプレイングの手法を用いてやり取りを練習する。さらにソーシャルストーリーの手法を用いて学習内容を視覚的にフィードバックすることで、場や相手の状況に応じた対応や自分の気持ちを表現する方法を習得することができるのではないかと考える。

さらに校内や家庭・地域において連携し、絵カードの支援やチェックリスト等を活用する取組みの実践を通して、成功体験を積み重ねることでコミュニケーションスキルを高めるようにしたい。

### 3 自立活動における本研究の指導内容について

#### (1) 指導計画について

A児の実態把握から個別の指導計画までの流れを次のように示す。A児の実態を自立活動の六つの区分(ア)に整理し、(イ)指導目標を設定した。次に(ウ)自立活動における項目に整理し、具体

的な指導内容（エ）と関連付けた。本研究では主に「具体的な指導内容」の①と②を基本としながら個別の指導計画（オ）のもと、学習を進めていくことにする。

#### （ア）A児の実態把握

| 観点<br>児童       | 実態や課題                                                   |                                                 |                                                                                              |                                                                         |                                |                                                                                      |
|----------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|                | 1 健康の保持                                                 | 2 心理的な安定                                        | 3 人間関係の形成                                                                                    | 4 環境の把握                                                                 | 5 身体の動き                        | 6 コミュニケーション                                                                          |
| A児<br>6年<br>男子 | ADHDを併せ有しているためコンサータを服用している。小児ネフローゼ症候群の治療中であるが、状態は良好である。 | 嫌なことを思い出すと泣き出すことがある。慣れない環境では落ち着かず、立ち歩く姿が多く見られる。 | 集団でも一人であることが多く、一人で自動車や鉄道のおもちゃで遊ぶことを好む。鬼ごっこや球技などの集団活動にはあまり興味がない。慣れた友だちとは、おしゃべりしたり、一緒に移動したりする。 | 聴覚に関して苦手な音がある。視覚に関して絵や写真等を集中して眺めることを好む。自宅近辺や校内等慣れた場所での自分の位置を把握することができる。 | 文字を力強く丁寧に書くことができる。絵を描くのが得意である。 | 自分の思ったことを言葉で伝えることが苦手である。独り言を言うことが多い。自分の興味があることを一方的に話したり、質問したりする。相手の話を最後まで聞くことが苦手である。 |

#### （イ）指導目標

自分の気持ちを表現する方法を習得し、場や相手の状況に応じたコミュニケーションスキルを高めることができる。

#### （ウ）自立活動における項目

| 選定された項目 | 1 健康の保持 | 2 心理的な安定 | 3 人間関係の形成              | 4 環境の把握 | 5 身体の動き | 6 コミュニケーション                                                                                              |
|---------|---------|----------|------------------------|---------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |         |          | (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 |         |         | (2) 言語の受容と表出に関すること。<br>(3) 言語の形成と活用に関すること。<br>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。<br>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。 |

#### （エ）具体的な指導内容

|                                                                             |                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ①文字を書いたり絵を描くことが得意なA児の長所を活かし、コミック会話の作成に取り組むことで、場面の状況に合ったやり取りを考えることができるようにする。 | ②SSTにロールプレイングの手法を取り入れることで、自分の気持ちや意思を言葉で伝えるスキルを身に付けることができるようにする。 |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|

#### （オ）自立活動における個別の指導計画

| 長期目標                                   |                   | コミュニケーションスキルを高め、他者と会話することができるようになる          |                                                                                                         |                                                                          |
|----------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 短期目標                                   | 指導目標              |                                             | 題材(コミック会話の場面)                                                                                           | 評価                                                                       |
| ①挨拶や自己紹介等コミュニケーションの基礎を身に付ける            | 人間関係の形成           | ・ときと場合に応じた気持ちのよい挨拶をすることができる                 | ・朝や昼に「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等、挨拶をする場面                                                                 | ・相手の顔を見て挨拶することができる                                                       |
|                                        |                   | ・自分の名前や好きなものを紹介することができる                     | ・自己紹介で自分の名前、学年、好きなことを相手に話す場面                                                                            | ・名前、学年、好きなことを話すことができる                                                    |
|                                        |                   | ・友だちの自己紹介を聞くことができる                          | ・自己紹介で友だちの名前、学年、好きなことを聞く場面                                                                              | ・友だちの名前、学年、好きなことを聞くことができる                                                |
| ②相手や場の状況に応じて、自分の気持ちや意思を言葉で伝えるスキルを身に付ける | コミュニケーション・人間関係の形成 | ・場や相手の状況を理解する<br>・感謝の気持ちを言葉で伝えることができる       | ・先生や友だちににってもらったことに感謝する気持ちを言葉で伝える場面<br>・相手に手助けしてもらったことに感謝する気持ちを言葉で伝える場面<br>・物や施設を貸してもらったことに感謝する気持ちを伝える場面 | ・自分の気持ちをコミック会話に記入し、完成することができる<br>・ロールプレイングを通して、相手に感謝する気持ちを言葉で伝えることができる   |
|                                        |                   | ・場や相手の状況を理解する<br>・相手に自分の気持ちや意思を言葉で伝えることができる | ・大きな声で話す相手に静かにしてほしい意思を言葉で伝える場面<br>・嫌なことをする相手にやめてほしい気持ちを言葉で伝える場面<br>・自分の好きな遊びを続けたい意思を言葉で伝える場面            | ・自分の気持ちや意思をコミック会話に記入し、完成することができる<br>・ロールプレイングを通して、自分の気持ちや意思を言葉で伝えることができる |

## 4 コミック会話とソーシャルストーリーについて

### (1) コミック会話について

コミック会話は、キャロル・グレイ(2005)によって提唱されたSSTの手法である。課題となっている場面を設定し人物を線画で描き、漫画でよく使われる「吹き出し」の中に言葉を入れていく

グレイによると「コミック会話は、視覚化と視覚支援が、自閉症の子どもの学習を構造化する上で有用であり、(Grandin, 1992; Gray, 1993; Odom&Watts, 1991; Twachtman, 1992; Quill, 1991; Quill, 1992) さらに、会話についての理解も向上させるという信念に基づいています。さらに、コミック会話では、シンボルの基本セットを用いて、自閉症の子どもには抽象的で理解困難なソーシャル・スキルを図示します。」と示されている。

## (2) ソーシャルストーリーについて

ソーシャルストーリーは保護者、兄弟、教師、医師など子どもの身近で生活している誰もが書き手になることができ、課題となっているあらゆる場面を題材に用いることができる。例えば、「挨拶のしかた」「手の洗い方」「食事のときのマナー」など、コミュニケーションやマナー、手順等を題材に合わせて設定することが可能である。

|    |                                                                               |                                    |
|----|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 1  | 子どもに自信をもたせながら、社交情報をわかりやすく、丁寧に伝えようとするものである。ソーシャルストーリー全体の50%は、達成したことを賞賛するものである。 | かかりのしごと                            |
| 2  | テーマをはっきりさせる導入部、詳しく説明する主部、情報を補強してまとめる結論部がある。                                   | かかりのしごとで、いんさつしつにコピーをもらいにいくことがあります。 |
| 3  | 子どもたちの疑問(5W1H)に答えるもの。                                                         | いんさつしつに、はいるときは、                    |
| 4  | 1人称あるいは3人称の視点で書くこと。                                                           | 「OねんOくみ、OOです。」                     |
| 5  | 前向きな表現を使うこと。                                                                  | 「コピーをOまい、おねがいます。」と、                |
| 6  | 必ず事実文を入れ、あとの5文型(見解文、指導文、肯定文、調整文)からは、1つあるいはいくつかを選択することができること。                  | じぶんのなまえと、ようけんをいいます。                |
| 7  | ソーシャルストーリーの公式に従って、指示よりも説明を多くすること。                                             | ようけんを、ようむいんさんが、きこえるおおきさのこえではなします。  |
| 8  | 読み手の子どもの特性と興味・関心に合わせた書式スタイルになっていて、しかも字義通正正確な表現にすること。                          | ようむいんさんが「どうぞ」といって、                 |
| 9  | 本文の意味を補強する写真やイラストを、挿入することもあること。                                               | コピーをわたしてくれたら、                      |
| 10 | タイトルは、ソーシャルストーリーの判定基準のすべてに適合させること。                                            | 「」といいましょう。                         |

文章を書くときは、読み手に正確に意味が伝わるように言葉を選び、肯定的な表現の動詞を用いて書くよう

(3) 自立活動におけるSSTの流れについて

- 5 -

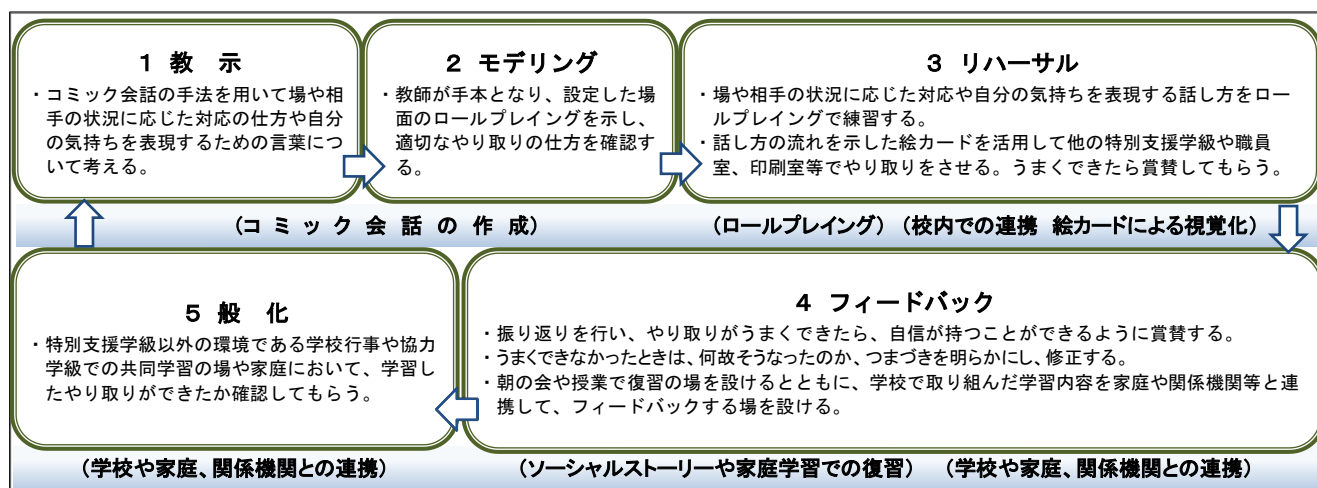


図4 SSTの流れ

## 5 学校と家庭・関係機関と連携した取組について

本研究では、A児が自立活動で習得したやり取りを特別支援学級内だけではなく、他学級や校内、家庭や児童デイサービス等の関係機関において、その習得したコミュニケーションスキルを定着させることができるように校内、家庭や児童デイサービス等の関係機関と連携を図っていく。

学級ではコミック会話を基に作成されたソーシャルストーリーを読んだり、適切な対応を問いかけたりする復習を行う。また、他学級や印刷室、保健室、図書室等において、その場で必要なやり取りを言葉や絵で示した絵カードを用いて、コミック会話で学習した内容をフィードバックするための環境設定を行う。その場で実際にやり取りし、うまくやり取りをすることができたら、シール等で賞賛することで成功体験を積み重ねていく。

家庭や児童デイサービスへは家庭学習として、ソーシャルストーリーの読み合わせやワークシートの活用等、学校でのSSTの学習内容と連動した取組みをしてもらい、A児が自立活動で学んだことを実際生活でのやり取りで話すことができたか、学校や家庭、児童デイサービス等でチェックシートに記録してもらうことで、A児の変容を確認することができるようにする。

## Ⅲ 指導の実際

表3 学習計画

### 1 学習計画

感謝の言葉5時間、断りなどの意思表示3時間、計8時間を表5に示す学習計画のとおり実施した(表3)。

### 2 検証授業1(平成28年11月25日実施)

(1) 題材名「感謝の言葉を伝えよう」

(2) 授業仮説

自閉症・情緒障害学級の自立活動において、実生活の中で興味のある題材を取り上げ、「ソーシャルストーリー」「コミック会話」の手法を用いたSSTの指導法を工夫することによって、場や相手の状況に応じた対応を考えるとともに、感謝の言葉を伝えることができるようになるであろう。

(3) 本時の展開

検証授業1を表4のとおり展開した。

表4 検証授業1の展開

|    | 学習内容                                    | 手立て及び支援の方法                                       | 身に付けさせたい力           |
|----|-----------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------|
| 導入 | ・前時までの学習内容を復習する。<br>・本時の授業で学習することを確認する。 | ・ソーシャルストーリーをプレゼンテーションソフトで提示する。<br>・本時の学習目標を確認する。 | 「ありがとう」等、<br>(既習事項) |

|        |                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展<br>開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミック会話を作成する。</li> <li>・1枚目のワークシートにテーマに合わせて登場人物や吹き出しを描く。(場面1)</li> <li>・吹き出しに台詞を記入し、人物の表情も描き入れる。</li> <li>・2つ目の場面を作成する。(場面2)</li> <li>・コミック会話を完成し、全員で内容を確認する。</li> <li>・ロールプレイングを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で取り扱う1つ目の場面を確認する。</li> <li>・時間がかかりすぎないように、イラストはシンプルでよいと指示する。</li> <li>・なかなか思いつかず、作業が進まないときは、教師の方で気付くことができるようにロールプレイング等で支援をする。</li> <li>・2つ目の場面を確認する。</li> <li>・液晶テレビを活用しワークシートを見せ、内容を確認する。</li> <li>・役割や台詞等を確認し、スムーズにロールプレイングが進められるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちに感謝する言葉に気付くことができる。</li> </ul> <p><b>身に付けさせたい言葉</b></p> <p>A「〇〇さん、スポンジと洗剤を(鍋)取って下さい。」</p> <p>B「はい、どうぞ。」</p> <p>A「ありがとう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の気持ちを言葉で伝えることができる。</li> </ul> |
| まとめ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りをする。</li> <li>・振り返りシートに記入する。</li> </ul>                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・B役の立場で「ありがとう」と言われた気持ちを考えることができるように導く。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                               |

#### (4) 授業仮説の検証と評価

以前から楽しみにしていた家庭科の調理実習の場면을題材に設定したことで、A児は最後まで集中しながら、意欲的に学習に取り組むことができた。

場面1の課題では「ありがとう」の台詞をスムーズに記入することができたが、場面2の課題では「どうぞ」ではなく「ありがとう」と台詞を誤って記入してしまった。同時に2つの課題を提示したことで、混乱し、2つの課題が理解できていない様子がみられたため、場面の状況をロールプレイングで説明すると、「どうぞ」とその場に合った台詞を記入することができた。

授業後半には他の児童とともに、作成したコミック会話を基にロールプレイングを行った。A児は板書された台詞を確認しながら「ありがとう」と感謝の言葉を話すことができた。

#### (5) 検証授業1の目標と評価

検証事業1の目標と評価を表5のとおり示す。

表5 検証授業1の目標と評価

| 目標                                   | 達成基準                         | 評価                                  |
|--------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|
| ・コミック会話の作成を通して、友だちに感謝する言葉に気づくことができる。 | ・ワークシートに感謝を表す言葉を記入することができたか。 | ・教師の支援で感謝の言葉に気づき、ワークシートに記入することができた。 |
| ・感謝の言葉をきちんと伝えることができる。                | ・ロールプレイングで感謝を表す言葉を言うことができたか。 | ・ワークシートを確認しながら、感謝の言葉を伝えることができた。     |

#### (6) 検証授業1の考察

A児の楽しみにしている調理実習を来週に控えており、実際の学校生活に即した場面を設定したことで、A児が興味を持ちながら調理実習に取り組む場面に応じた対応や感謝の気持ちを考えて表出することができた。また、ソーシャルストーリーの手法を取り入れ、前時の復習に取り組んできたことで「ありがとう」の感謝の言葉をスムーズに引き出すことができた。会話のやり取りをコミック会話で考え、場の状況に応じた対応の仕方をとらえることができたので、ロールプレイングでも感謝の言葉を伝えることができた。

自閉症・情緒障害学級の自立活動において、実生活の中で興味のある題材を取り上げ「ソーシャルストーリー」「コミック会話」の手法を用いたSSTの指導を工夫することで、自分の気持ちを表現する方法を習得することができたのではないかと考える。

### 3 検証授業2(平成29年1月17日実施)

#### (1) 題材名「ともだちのさそいのことわりかたを知ろう」

#### (2) 授業仮説

自閉症・情緒障害学級の自立活動において、日常生活に多く見られる場面を題材に設定し、「ソーシャルストーリー」「コミック会話」のSSTの手法を取り入れ、指導法を工夫することによって、場や相手の状況に応じた対応や自分の気持ちを考えて言葉を表現することができるであろう。

#### (3) 本時の展開

検証授業2を表6のとおり展開した。

表6 検証授業2の展開

|    | 学習内容                                                                                            | 手立て及び支援の方法                                                                                               | 身に付けさせたい力                                                                  |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習内容を復習する。</li> <li>・本時の授業で学習することを確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルストーリーをプレゼンテーションソフトで提示する。</li> <li>・本時の学習目標を確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」「やめてください」等(既習事項)</li> </ul> |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を把握し、コミック会話を作成する。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で扱う場面を教師によるロールプレイングで提示し、理解しやすいように支援する。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・断りの意思を表す言葉に気付くことができる。</li> </ul>   |

|             |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展<br>開      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚目のワークシートにテーマに合わせて登場人物や吹き出しを描く。</li> <li>・吹き出しに台詞を記入し、人物の表情も描き入れる。</li> <li>・コミック会話を完成させ、内容を確認する。</li> <li>・ロールプレイングを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物、周りの物、吹き出し、表情の順番を示す。</li> <li>・わかりやすくするために、A児の吹き出しを1つに設定する。</li> <li>・なかなか思い浮かないときは、教師の方で声かけ等の支援をする。</li> <li>・表情等シンボルの記入を確認する。</li> <li>・ワークシートを見せ、内容を確認する。</li> <li>・吹き出しの色を変えたり、名前を書き入れたりして、やり取りの理解を図る。</li> <li>・役割や台詞等を確認し、スムーズにロールプレイングが進められるようにする。</li> <li>・ビデオで録画する。</li> </ul> | <p><b>身に付けさせたい言葉</b></p> <p>A「今日はやらない。」<br/>「後で。」等</p> <p>B「うん、わかった。」<br/>「今度ね。」等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・断りの意思を言葉で伝えることができる。</li> </ul> |
| ま<br>と<br>め | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りをする。</li> <li>・振り返りシートに記入する。</li> </ul>                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを見ながら振り返りをする。</li> <li>・B役の立場で無視されずに言葉で返事をもらった気持ちを考えるように導く。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                              |

#### (4) 授業仮説の検証と評価

導入時にソーシャルストーリーを用いて復習の場を設けた。A児に対して文末付近の感謝の言葉や拒否の意思を表出する場面で「何といたらいい?」と問いかけると「ありがとう」や「やめてください」と、その場面に応じた言葉を答えることができた。

コミック会話の作成時に、本時で扱う場面を教師によるロールプレイングを用いて説明したことで、場面の状況をしっかりととらえ、ワークシートに「絵を描くから、あっち行って。」と、断りの意思を表す言葉を記入することができた。ロールプレイングでは、「絵を描くから、今はいかない。後で。」と、丁寧に断ることができた。

授業の終わりに借りた鉛筆を返す際、A児から自然に「ありがとうございました。」とお礼の言葉が表出した。

#### (5) 検証授業2の目標と評価

検証事業2の目標と評価を表7のとおり示す。

表7 検証授業2の目標と評価

| 目標                                   | 達成基準                            | 評価                                   |
|--------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| ・コミック会話の作成を通して、断りの意思を表す言葉に気づくことができる。 | ・ワークシートに断りの意思を表す言葉を記入することができたか。 | ・教師の支援で断りの意思を表す言葉をワークシートに記入することができた。 |
| ・断りの意思をきちんと言葉で伝えることができる。             | ・ロールプレイングで断りの意思を伝えることができたか。     | ・ワークシートを確認しながら、断りの意思を伝えることができた。      |

#### (6) 検証授業2の考察

ソーシャルストーリーの手法を用いて、前時までの学習内容に沿って作成したスライドを活用して振り返りを行ってきたことで、「ありがとう」「やめてください」などの言葉をスムーズに表出することができるようになってきたと考える(図5)。

コミック会話の作成時に、教師によるロールプレイングの手法を用いて、本時で取り扱う場面を説明したこと、また、ワークシートの台詞を1つに設定し、課題を明確に示したことで、取り組む内容や場面の理解へとつながり、相手や場の状況に応じた言葉や態度を考えることができるようになってきた(図6)。

A児の作成したコミック会話のワークシートの吹き出しの色を変えたとともに名前を記入する工夫をしたことで、児童によるロールプレイングを実施する際に、友だちの誘いを無視せずに、言葉で断りの意思を伝えることができた。(図7、図8)。このようなことから、ソーシャルストーリーとコミック会話の手法を取り入れたSSTは、場や相手の状況を考えて、適切な言葉で対応するスキルを高めることに効果があったのではないかと考える。



図5 ソーシャルストーリーの活用 図6 教師によるロールプレイング



図7 吹き出しへの工夫 図8 ロールプレイングの様子

## IV 研究仮説の検証と考察

### 1 学校内における検証

#### (1) 授業以外の場でのSSTの活用

自立活動の授業で用いたソーシャルストーリーを、朝の会等の時間にスライドショーで振り返りを行い、家庭や児童デイサービスと連携し家庭学習として取り組んできた。その結果少しずつではあるが、A児が言葉をスムーズに表出することができるようになりつつある。今後も取り組みを継続していくことで、言語の習得に効果があるのではないかと考える。

#### (2) 絵カードを活用した視覚化の取り組み

「ソーシャルストーリー」「コミック会話」の手法を取り入れた会話や動作の手順を絵カードに文章と絵で示す。(図9) SSTのリハーサル段階として、他の教室等で入室の仕方や係の仕事等で必要とされるやり取りを、カードに示された手順を確認することができるように視覚化を図ってきたことで、コミュニケーションへの意欲が少しずつ高まりつつあり、印刷室等の慣れた場所では、やり取りがスムーズになってきた。

絵カードを活用した視覚化による環境設定は、言語の表出に効果があったのではないかと考える。



図9 絵カードを活用した視覚化

#### (3) A児のコミュニケーションに関するアンケート

11月と同様に、A児のコミュニケーションに関するアンケートを行った。両方の結果から変化の見られた項目を比較すると、「嫌がっていることを言葉で話す」の項目で「自分ができる」が3ポイント増えており、「自分の要求を言葉で話すこと」の項目で「自分ができる」が1ポイント増えている。また、「相手の話を落ち着いて聞くこと」、「感謝の気持ちを言葉で話すこと」、「困っていることを言葉で話すこと」の3項目で「促されてできる」の回答が増えてきている(図10)。

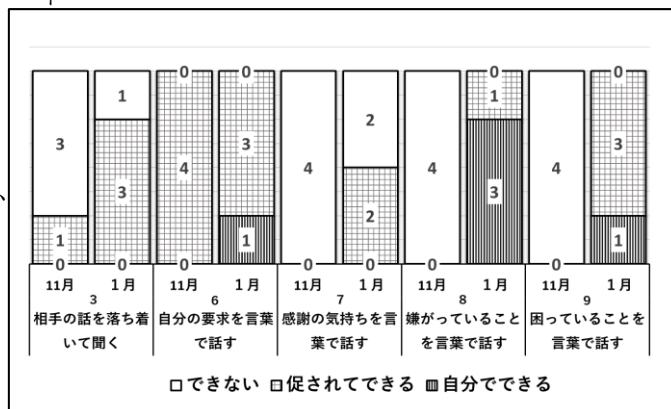


図10 A児のコミュニケーションに関するアンケート  
(平成28年11月、平成29年1月実施 一部抜粋)

### 2 家庭・児童デイサービス(地域)における検証

#### (1) 家庭における検証

家庭では、主に母親に対して「おねがいします」と言葉にして、自分の要望を伝える様子が見られはじめている。一方、「ありがとう」という感謝の言葉の表出がまだ少ない。

現在、家庭の方でも学習内容と連動した取り組みとして、A児に対して適切な対応の仕方について促しを継続しており、少しずつ言葉の表出が増えてきている(図11)。

|       |                                           |      |                           |
|-------|-------------------------------------------|------|---------------------------|
| 12/14 | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | 母に   | けったのインターネット<br>見たことあるか?   |
| 1/1   | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | サマタに | クリスマスプレゼント<br>もらったのを思い出して |
| 1/5   | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | 母に   | テレビを消して下さい。               |
| 1/11  | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | 母に   | テレビを消して下さい。               |

図11 家庭での様子

#### (2) 児童デイサービスにおける検証

放課後利用している児童デイサービスでは、家庭とは異なり、「ありがとう」の感謝の言葉が多く表出されている。主に何かを受け取る場面で見られている。おやつを受け取り等の、習慣化している場面においては、感謝の言葉を表出することができるようになっている。また、普段関わりのあるデイサービスの職員以外の人物に対しても、感謝の言葉

|                 |                                           |      |                                            |
|-----------------|-------------------------------------------|------|--------------------------------------------|
| 12/13<br>16時4分  | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | 職員   | おやつを渡した際に。                                 |
| 12/15<br>16時15分 | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | スタッフ | のオーパニック<br>セールで風船をもらったときに<br>こちらのイビツ言っていた。 |
| 1/12<br>16時15分  | ありがとう・こんにちは・いやだ<br>いいです・おねがいします<br>その他( ) | 職員   | おやつを渡した際に。                                 |

図12 児童デイサービスでの様子

を話すことができるようになってきている（図12）。

### 3 発達検査による検証

#### (1) S-M社会生活能力検査

1月に「S-M社会生活能力検査」の二回目の検査を実施した。6月の検査結果と比較すると、「意思交換」領域が3歳9ヶ月から4歳3ヶ月へ値が高まっている。これは、言葉の遅れや会話の困難さなど、コミュニケーションに関する特性を有するA児に対し、コミック会話の作成で場面に合わせたやり取りを考え、ロープレイングでやり取りを練習してきたこと、その後ソーシャルストーリーを用いてフィードバックを行ってきたこと。さらに、絵カードを活用してやり取りを視覚化してきたことや言葉を表出することができるように関係する職員との連携した促し等の取組みを行ってきたことにより、会話に必要な言葉が徐々に習得されてきたためではないかと考える。また、「集団参加」領域が2歳7カ月へ下がった要因として、6月から10月までは、修学旅行、運動会等の学校行事で集団と関わる機会が多かった。11月以降は学校行事が減ったことで、協力学級での学習が少なくなり、集団への参加の機会が減ったことが要因ではないかと考える（表8）。

表8 S-M社会生活能力検査  
(平成28年6月、平成29年1月実施)

| 領域等    |    | 6月    | 1月   |
|--------|----|-------|------|
| 生活年齢   | CA | 11-11 | 12-6 |
| 社会生活年齢 | SA | 4-0   | 4-3  |
| 社会生活指数 | SQ | 34    | 34   |
| 身辺自立   | SH | 4-8   | 5-5  |
| 移動     | L  | 3-9   | 4-8  |
| 作業     | O  | 5-1   | 5-1  |
| 意志交換   | C  | 3-9   | 4-3  |
| 集団参加   | S  | 3-1   | 2-7  |
| 自己統制   | SD | 2-9   | 2-9  |

#### (2) ヴァインランドⅡ-適応行動尺度

「ヴァインランドⅡ-適応行動尺度」も、同様に1月に二回目の検査を実施した。11月の結果と比較すると、コミュニケーション領域において、下位領域の「受容言語」のV評価点の値が、11月の5点から1点伸び、6点となっている。最も課題であると考えていた「表出言語」の値が1点から1点伸び、2点となっている（図13）。

さらに、相当年齢を比較すると、「受容言語」が2歳4カ月から2歳8カ月へ、「表出言語」が2歳11カ月から3歳6カ月へ伸びている（表9）。

この2つの下位領域の伸びは、コミック会話やソーシャルストーリーを実践していく中で、相手の言葉を正しく受けることができるようになり、それに対して適切な言葉を返すという会話のキャッチボールができるようになってきたことで、コミュニケーションスキルが高まり、「受容言語」と「表出言語」の領域が伸びてきたのではないかと考える。

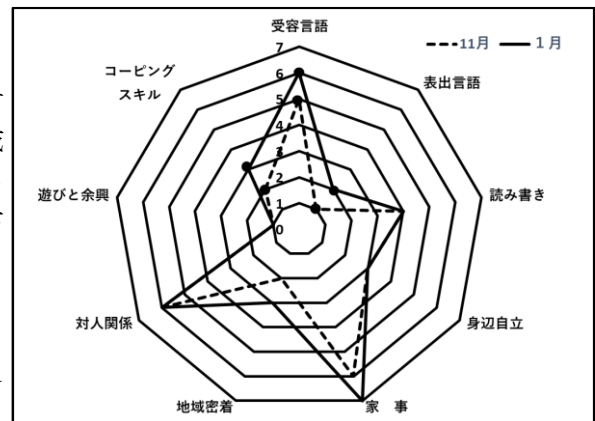


図13 ヴァインランドⅡ-適応行動尺度  
(平成28年11月、平成29年1月実施一部抜粋)

表9 コミュニケーション領域の相当年齢

| 下位領域/領域 | 相当年齢 |     |
|---------|------|-----|
|         | 11月  | 1月  |
| 受容言語    | 2:4  | 2:8 |
| 表出言語    | 2:11 | 3:6 |
| 読み書き    | 7:2  | 7:2 |

## V 成果と課題

### 1 成果

- (1) 自立活動の授業において、A児の興味のある環境設定と強みを活かしたコミック会話の手法を用いたことで、場や相手の状況に合った適切な対応の仕方を考えることができるようになりつつある。
- (2) 校内において職員と連携を図りながら、ロープレイングやソーシャルストーリーの手法を用いてきたこと、絵カードを用いてやり取りの手順を視覚的に示す環境づくりを行ってきたことで、A児が場や相手の状況に応じたやり取りをスムーズにできるようになってきた。
- (3) 家庭や児童デイサービスの職員との連携を図ってきたことにより、学校生活以外の環境でも自分の気持ちや要望を言葉で伝えることができるようになってきた。

### 2 課題

- (1) 本研究のSSTの取組みで身に付いてきたスキルの定着・般化を目指し、今後も交流及び共同学習の充実を図り、学校や家庭・地域との連携を継続していく。
- (2) 卒業後、中学校へ進学する際にA児の特性や自立活動で行った指導内容を引き継ぎ、途切れない指導の継続を図っていく。

## 〈参考文献〉

- 宮本信也監修 2015 『じょうずなつきあい方が自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群）の本』 主婦の友社
- 旭出学園教育研究所編 2015 『S-M 社会生活能力検査の活用と事例 ―社会適応性の支援に活かすアセスメント―』 日本文化科学社
- PDDプロジェクト著者 2014 『6つの領域から支援する 自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム』 学苑社
- 辻井正次・村上隆監修 2014 『日本版 Vineland-II 適応行動尺度 マニュアル』 日本文化科学社
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』 海文堂出版
- キャロル・グレイ編書 服巻智子訳・解説 2006 『お母さんと先生が書くソーシャルストーリー 新しい判定基準とガイドライン』 かもがわ出版
- キャロル・グレイ編書 服巻智子監訳 大阪自閉症研究会編訳 2005 『ソーシャルストーリー・ブック（改訂版）入門・文例集』 株式会社クリエイツかもがわ
- キャロル・グレイ書 門眞一郎訳 2005 『コミック会話 自閉症など発達障害のあるこどものためのコミュニケーション支援法』 明石出版
- 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所編書 2004 『自閉症教育実践ガイドブック 今の充実と明日への展望』 ジアース教育新社
- 旭出学園教育研究所編 1980 『新版 S-M 社会生活能力検査 手引き』 日本文化科学社

## 〈参考URL〉

- 独立行政法人国立特殊教育総合研究所 『7. 自閉症・情緒障害教育』  
<http://www.nise.go.jp/cms/13,0,49.html> (2017/2/22 アクセス)
- 中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）概要』  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm) (2016/10/14 アクセス)